

大いなる幻影 (1937)

LA GRANDE ILLUSION
THE GRAND ILLUSIONメディア 映画
ジャンル ドラマ 戦争
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 117分
初公開日 1949/05/21
公開情報 三映社
映倫 G1976/10 [フランス映画社]
リバイバル 2001/01 [ザジフィルムズ]
2018/02/03 [川崎市アートセンター] (デジタル修復版)

【キャッチコピー】

国境をこえる愛と愛と自由に平和の理想を刻む 巨匠ルノワールの 映画史上最高の金字塔 問題の完全版 日本初公開！(リバイバル時)

【解説】

J・ルノワールというと、とにかくこのヒューマンな映画ばかり思い起こされてしまう時代があった。が、「ゲームの規則」や「黄金の馬車」などに較べると、お行儀がよすぎる感もある。第一次大戦のさなか、マレシャル大尉（フレネー）は敵情視察に飛び、ドイツ軍の捕虜となる。下町の機械工だった中尉と貴族出の大尉ではなにかと溝があり、収容所で一緒になった連中とも打ち解けないままに、脱走計画が企てられ、一同は団結する。裕福なユダヤ人のロザンタールの家から送られた慰問物資の缶詰めが穴を掘るシャベルとなった。慰安演奏会の夜、占領されていたドーモン奪回の報が届く。中尉は感激に舞台上に飛び上がって“ラ・マルセイーズ”を高らかに歌い、一同はそれに和して涙する。が、首謀者の中尉は営倉入り。初めはハンストしていた彼が監視の老兵とハーモニカで心を通わせる。そして、いざ脱出路貫通の間際に別の収容所へ移送される一同。代わりに入る捕虜たちに脱出路の事を伝えようとするが叶わない。スイス国境に近いケーニヒスブルグの古城が次の彼らの向かう先。その所長は中尉たちを撃墜したフォン・ラウフェンシュタイン（シュトロハイム）で、大尉とは貴族同士の語らいを持つ。そして、捕虜たちは中尉とロザンタールだけでも逃がそうと行動を起こし、大尉が囚らずも所長の銃に撃たれ犠牲となる。脱出に成功した二人は、やはりり夫を戦地に送り出した子持ちの人妻エルザ（D・パーロ）に匿われ、無事スイス側へと逃げ延びる……。戦争がまだ紳士的であった時代の残り香漂う、人間交響楽的な作品である。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
製作	アルベール・ピンコヴィッチ	Albert Pinkovitch	(クレジットなし)
	フランク・ロールメール	Frank Rollmer	(クレジットなし)
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir	
	シャルル・スパーク	Charles Spaak	
撮影	クリスチャン・マトラ	Christian Matras	
撮影助手	クロード・ルノワール	Claude Renoir	
編集	マルグリット・ルノワール	Marguerite Renoir	

音楽 出演	マルト・ユゲ	Marthe Huguet	
	ジョセフ・コズマ	Joseph Kosma	
	ジャン・ギャバン	Jean Gabin	マレシャル中尉
	ピエール・フレネー	Pierre Fresnay	ド・バルデュー大尉
	エリッヒ・フォン・シュトロハイム	Erich von Stroheim	ラウフェンシュタイン 大尉
	ディタ・パルロ	Dita Parlo	エルザ
	ジュリアン・カレット	Julien Carette	カルティエ
	マルセル・ダリオ	Marcel Dalio	ローゼンタール中尉
	ジャン・ダステ	Jean Daste	教師
	ガストン・モドー	Gaston Modot	技術者